

平成 20 年 7 月 22 日

羅臼岳登山における携帯トイレ利用の普及促進について

1. 経 緯：羅臼岳におけるし尿対策のため、登山者の携帯トイレ利用を促進する取り組みを平成 20 年度から進める。
2. 関係機関：斜里町、羅臼町、北海道、北海道森林管理局、環境省（釧路自然環境事務所）
3. 具体的な取組
 - ①販売場所（岩尾別地区宿泊施設、木下小屋、知床自然センター、羅臼ビジターセンター、羅臼キャンプ場、国設知床野営場）
 - ②回収、収集、処理費用（斜里町、羅臼町）
 - ・斜里町：内容の分別を前提とし、事業系一般ごみとして収集処理する（木下小屋トイレ横、岩尾別バイオトイレ横回収ボックスで回収、それぞれの施設に回収場所の管理を委託）。回収場所でチップを入れてもらうようにするが、当面の回収費用は町が負担する。
 - ・羅臼町：有料ゴミ袋に入れてもらいキャンプ場で回収を実施する。
 - ③携帯トイレブース
 - ・携帯トイレブースや固定式トイレの設置、維持管理等の課題を踏まえつつ、引き続き関係機関において検討する。
 - ④普及啓発（北海道、斜里町、羅臼町、北海道森林管理局、環境省）
 - ・ポスター及びリーフレットの作成
 - ※斜里町及び羅臼町内での配付の他、周辺の空港、道の駅、レンタカーやバス会社、道外を含む登山ツアー主催会社、道内の登山用具店、山岳会など山岳団体、山岳ガイド協会、山岳関係雑誌などに配付
 - ・グリーンサポートスタッフ等による普及活動
 - ・ホームページでの情報提供
 - ⑤利用状況の把握（環境省、林野庁、北海道、羅臼町、斜里町）
 - ・本取り組みを推進するため、携帯トイレの利用状況のモニタリングやアンケートにより、利用者の意識の把握に努めるとともに、課題の整理と対応策を検討する。
 - ⑥時 期
 - ・7 月～10 月（山開きは 7/6）
4. 取組みの進捗状況
 - <斜里側>
 - 6 月中にチラシ・ポスター配布
 - 公園内外主要施設での携帯トイレ販売開始。販売状況は概ね好調
 - 岩尾別登山口の 2ヶ所（木下小屋トイレ横、岩尾別バイオトイレ横）に携帯トイレ回収ボックス設置（1 基＝45L×3、7/1 から稼動）

- 回収ボックスの管理は、木下小屋、およびホテル地の涯にそれぞれ委託（7/1～10/31）
- 週2回（水・土曜）、事業系一般ゴミとして業者が回収
- 7/1～18の間の回収数は、2ヶ所合計で約60個
- 回収ボックスがあふれるような状況は発生していない
- 内容物の分別を実施する人は極少数
- 携帯トイレ以外の一般ゴミの投入あり
- 登山者から「回収ボックスだけではなく、携帯トイレブースも設置しなければだめだ」という強い意見あり

<羅臼側>

- 7月4日までにチラシ・ポスター配布終了
- 羅臼ビジターセンター、国立公園羅臼温泉野営場で販売開始
- 町内のスポーツ店（1店）でも昨年より販売している
- 国立公園羅臼温泉野営場の既設のゴミ箱を回収ボックスとして使用
- ほぼ毎日清掃業者が一般ゴミと一緒に回収
- 7月からの販売では、羅臼ビジターセンター5個、国立公園羅臼温泉野営場4個、町内スポーツ店0個の計9個が購入されている
- 回収状況は一般ゴミと同じゴミ箱のため不明
- 登山者からの要望は特に無い



▲木下小屋トイレ横回収ボックス



▲岩尾別バイトイレ横回収ボックス



▲回収ボックス（ポリエチレン製 560L：W105×D68×H99cm）



▲回収ボックス内部（3連式 45L 蓋付容器を収納）

環境省釧路自然環境事務所

携帯トイレ利用促進等に関する調査の実施について

1 調査の目的

知床半島中央部の羅臼岳は、身近に世界自然遺産を感じることができる場所として、年間約1万人の登山客が訪れているが、往復約10時間の登山道には登山口にしかトイレがなく、野営地周辺などでは登山者のし尿による悪臭や水場の汚染などが問題となっている。このため、知床国立公園利用適正化検討会議では、平成20年度から、関係機関の連携・協力のもと、登山者の携帯トイレ利用促進の取組に着手することが決定された。

本調査では、登山者へのアンケート・ヒアリング調査等により、携帯トイレの利用実態等を把握し、羅臼岳登山道及び知床連山縦走路における屎尿対策のあり方について検討を行う。

また、併せて、問題となっている登山者による登山道の荒廃への対策として、二つ池ルートへの付け替えと、ストックキャップの使用推進について検討を行う。

2 調査の内容

(1) 知床連山における排泄物の発生・処理の現況の把握

知床連山の登山者による排泄及び巡視員等による排泄物の回収の実態、排泄に伴う踏み分け道の発生や異臭の発生等、排泄に関する知床連山の現況を明らかにする。

(2) 知床連山登山道における携帯トイレの利用状況に関するアンケート・ヒアリング調査

知床連山の登山道における携帯トイレの利用状況等について、登山者・山岳ガイド等に対し、意識（利用促進対策に関する理解度等）、属性（行程、山行の頻度等）、携帯トイレの利用状況（所持・利用状況、購入場所）等に関するアンケート調査・ヒアリング調査を実施し、携帯トイレの普及の阻害要因を明らかにする。

(3) 知床連山における屎尿対策のあり方の提案

上記（2）の調査結果を踏まえ、利尻山、大雪山等道内の他地域の事例も参考にしつつ、有識者の意見を聴取した上で、知床連山における屎尿対策のあり方を提案する。提案にあたっては、携帯トイレブースの設置や、固定式トイレ設置の必要性・有効性についても検討を行う。

(4) 屎尿対策施設の管理のあり方の検討

上記（3）の提案に基づき、施設の設置等に伴い必要となる管理の内容について明らかにし、その役割分担を含む管理手法について提案を行う。

(5) その他知床連山における登山道荒廃防止対策の検討

ア 二つ池ルート付け替えに関する検討

登山者の踏みつけによる希少な湿原植生の荒廃が問題となっている二つ池ルートについて、専門家との合同調査を行うとともに、関係機関（林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、地元山岳会）からの意見を聴取した上で、付け替えの是非及び付け替えを行うための課題について整理を行う。

イ スtockキャップ使用の推進に関する検討

登山道の荒廃防止のため、登山用ストックの使用による登山道への影響、ストックキャップ使用の有効性、ストックキャップの普及方策の検討を行う。

知床登山のマナー

携帯トイレを持っていますか？

知床世界自然遺産を守るために

携帯トイレを使いましょう！

知床には年間1万人の登山者が訪れますが、往復約10時間の登山ルートにトイレは登山口(2カ所)にしかありません。野営地周辺などでは登山者のし尿による悪臭や水場の汚染が大きな問題となっています。また、用を足すための踏み跡が裸地を拡大させ、深刻なダメージとなっています。世界自然遺産である知床の自然を守るために、携帯トイレを必ず持参ご利用ください。

なるべく入山前にトイレを
済ませ、登山道では
携帯トイレのご利用を！

- ⚠️ 携帯トイレを持参しましょう。
- ⚠️ 携帯トイレは登山口等でも販売しています。
- ⚠️ 登山口に使用済み携帯トイレの回収BOXを設置しています。

斜里町内、羅臼町内でも携帯トイレを販売しています



トイレットペーパーも一緒に持ち帰りましょう。



携帯トイレご利用中は、貴重な植物を踏みつけないようにご注意ください。

登山口には携帯トイレの回収ボックスを設置しています。

携帯トイレは登山口の回収ボックスまで必ず持ち帰りましょう。

トイレットペーパーも必ず持ち帰りましょう。

登山口のトイレで内容物を分別し、
携帯トイレのみを回収BOXに入れてください。

携帯トイレの 販売場所

斜里町

- 木下小屋
- 知床自然センター
- ホテル地の涯
- 岩尾別ユースホステル
- 道の駅うとろ・シリエトク
- 国設知床野営場 (ボランティア拠点施設)
※国設知床野営場のみ、6月20日～9月15日の販売期間となります。

羅臼町

- 羅臼温泉野営場
- 羅臼ビジターセンター
- むらたスポーツ

携帯トイレの 回収場所・期間

斜里町

岩尾別登山口に回収BOX (トイレ横)
無料回収 (協力金箱の設置をしております。ご協力お願いします。)

羅臼町

羅臼温泉野営場に回収BOX
有料ゴミ袋 (1袋100円) をご利用ください。(キャンプ場内でも販売しています。)

回収期間

7月～10月中旬頃まで

登山口 トイレ設置場所

なるべく入山前に
トイレを済ませましょう

